

令和6年度

茨木市施政方針

6月7日から市議会定例会が開かれ、福岡洋一市長が令和6年度の市政運営の基本姿勢を示す「施政方針」を発表しました。その一部を紹介します。

問合せ先 政策企画課 ☎ 620・1605

みんなで創り上げる 「次なる茨木」へ

4月の市長選挙において、3期目の重責を担わせていただくことになりました。

これまで皆さまとともに、安全・安心、そして豊かさ・幸せを実感できる「次なる茨木」への歩みを進めてまいりました。

その象徴というべき、文化・子育て複合施設「おにクル」は、来館者数も100万人を迎え、名実ともに茨木の新たなランドスケープとなりました。その活用は道半ばであり、様々なまちのプレイヤーとつながる共創のまちづくりに挑み続けてまいります。

もう一つの「次なる茨木」の象徴である、北部地域「いばきた」の拠点となる「ダムパークいばきた」は、4月の一部オープンから多くの皆さまにご利用いただいております。冬には歩行者専用としては日本最長の吊り橋も完成予定です。「山とまちをつなぐハブ拠点」の役割が存分に発揮できるよう、議論と整備を続けてまいります。

本市には、約2万人の大学生が学び、約9千の事業所に約10万人の皆さまが働いておられます。市民の皆さまに加え、こうした皆さまの「まちでの関わりしろ」を増やし、まちに関わる「人」のつながりを深め、活力と創造性にあふれるまちをめざしてまいります。

「次なる茨木」に向けたもう一つの大きな柱が、安全・安心が実感できるまちづくりです。人生や暮らしの場面において、様々な生きづらさを抱えるかたがおられます。基礎自治体の使命として、その解消に向け、穏やかな暮らしを支える最後の砦となり、誰一人取り残すことなく、市民の皆さまに寄り添ってまいります。

本市の人口は、全国的な人口減少社会の中にあっても、現在も増加が続いております。

地理的な条件に加え、顔の見える盛んな市民活動から生まれる、まちの安全と活気も評価につながっているものと認識しております。地域やまちなかで汗をかいてこられた皆さまの活動こそが、持続可能なまちへの鍵になると確信しております。

「次なる茨木」はみんなで創り上げるものであります。まちに関わる皆さまとともに対話と議論を積み重ね、信頼と共感に根ざしたプロセス重視・ひと重視のまちづくり、「次なる茨木」をさらに形にするため、挑戦していく決意と覚悟であります。

皆さまにおかれましては、より一層のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

※市長が示す6本柱の政策の主な事業は、広報いばらき8月号で紹介します

茨木市長 福岡 洋一

